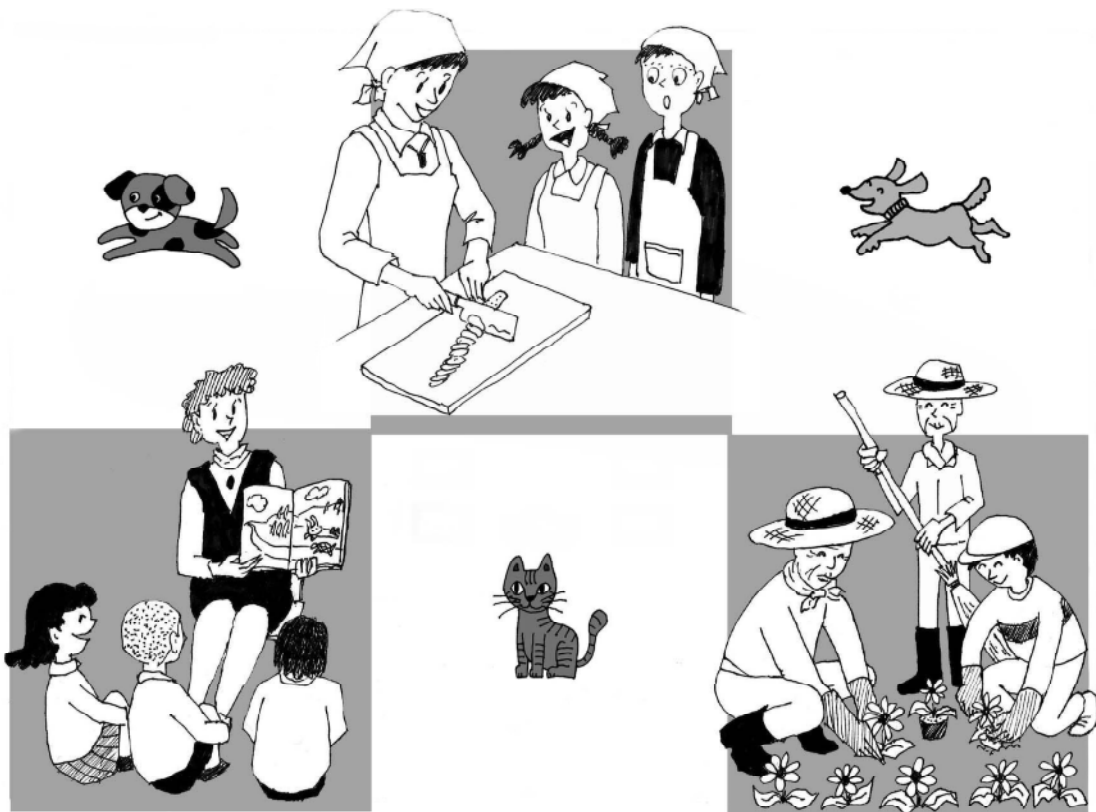


学校支援センター運営推進事例集 2



平成20年3月

群馬県教育委員会

はじめに

群馬県教育委員会では、平成16年度より、地域の教育力を有効活用した学校の教育活動の一層の充実を目指して、その拠点となる「学校支援センター」の設置とその運営推進をお願いしてきました。

その具体策として、以下の学校に地域の教育力有効活用推進嘱託員を配置し、モデル校として学校支援センターの運営推進に取り組んでいただき、その成果の普及に努めてきました。

【平成16年度 8校】

前橋市立大和根小学校 高崎市立中央小学校 中之条町立伊参小学校
川場村立川場小学校 太田市立沢野中央小学校
吉岡町立吉岡中学校 富岡市立富岡中学校 桐生市立昭和中学校

【平成17年度 13校】

前橋市立下川淵小学校 前橋市立大胡東小学校 伊香保町（渋川市）立伊香保小学校
高崎市立大類小学校 藤岡市立日野小学校 群馬町（高崎市）立堤ヶ丘小学校
長野原町立応桑小学校 月夜野町（みなかみ町）立桃野小学校 桐生市立昭和小学校
太田市立旭小学校 館林市立第八小学校
伊香保町（渋川市）立伊香保中学校 高崎市立大類中学校

【平成18年度 14校】

前橋市立元総社北小学校 伊勢崎市立殖蓮第二小学校 玉村町立玉村小学校
玉村町立上陽小学校 吉井町立吉井西小学校 甘楽町立新屋小学校
中之条町立名久田小学校 沼田市立白沢小学校 太田市立木崎小学校 館林市立第十小学校
玉村町立玉村中学校 安中市立松井田南中学校 沼田市立白沢中学校 桐生市立相生中学校

【平成19年度 8校】

伊勢崎市立境小学校 富士見村立白川小学校 富岡市立高瀬小学校 東吾妻町立東小学校
昭和村立東小学校 桐生市立南小学校 太田市立藪塚本町南小学校
高崎市立矢中中学校

その結果、平成19年度末には、県内の市町村立小・中・特別支援学校520校すべての学校に、学校支援センターが設置（機能のみも含む）されております。

本冊子は、平成19年度のモデル校8校の取組を、「1 活用事例一覧」「2 授業での活用事例」「3 授業以外での活用事例」に分けて紹介しています。本冊子を、「平成17年度学校支援センターの手引き」「平成18年度学校支援センター運営推進事例集」と合わせて活用いただき、今後とも各学校の実態やニーズに応じ、学校支援センターの運営推進にご協力をお願い申し上げます。

平成20年3月
群馬県教育委員会
義務教育課長 矢島 正

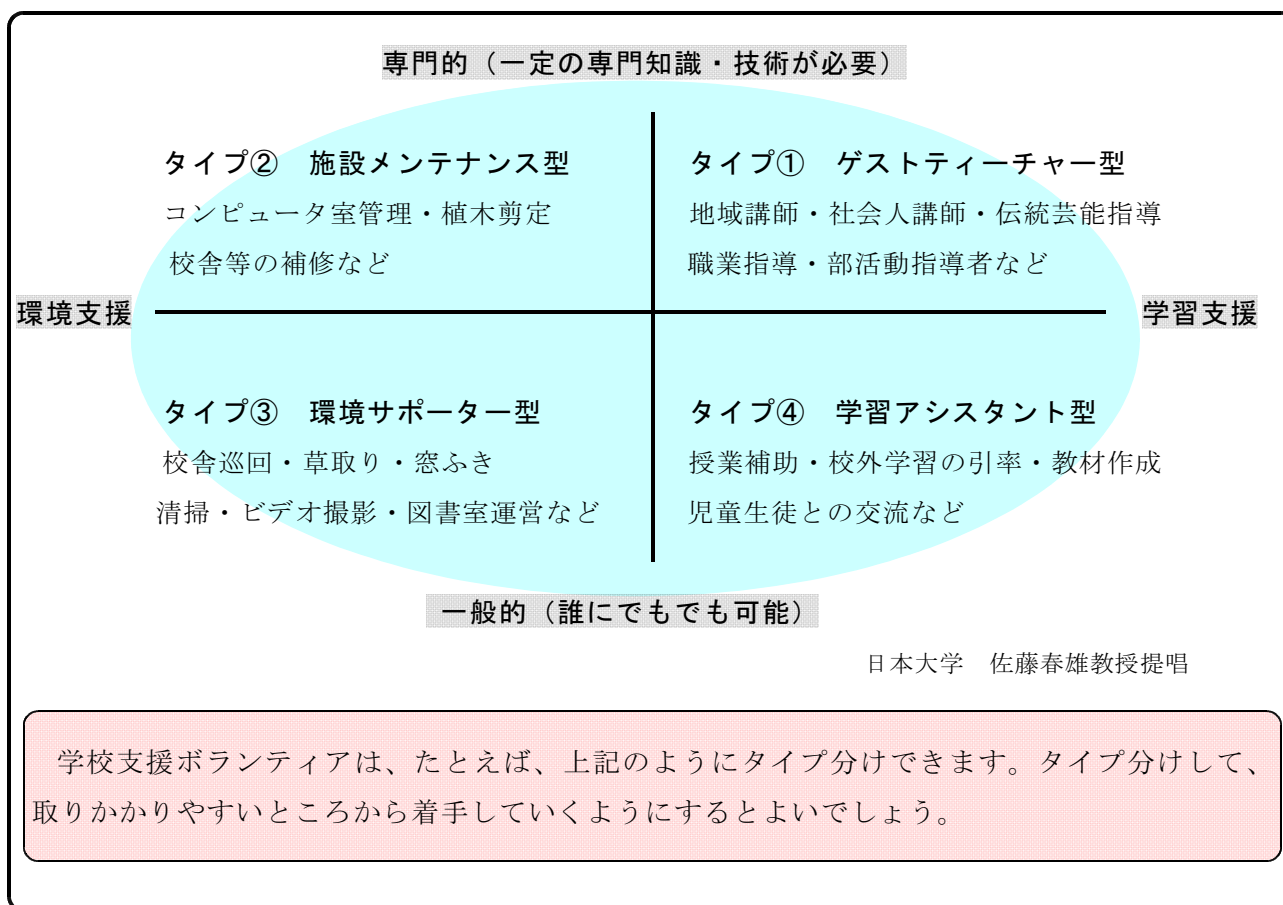
目 次

学校支援センターの運営を効果的に進めるためのポイント	1
学校支援センター運営推進状況	3
1 活用事例一覧	
伊勢崎市立境小学校	6
富士見村立白川小学校	7
高崎市立矢中中学校	8
富岡市立高瀬小学校	9
東吾妻町立東小学校	10
昭和村立東小学校	11
桐生市立南小学校	12
太田市立藪塚本町南小学校	13
2 授業での活用事例	
伊勢崎市立境小学校（5年・学級活動）	14
富士見村立白川小学校（4年・社会）	15
高崎市立矢中中学校（2年・理科）	16
富岡市立高瀬小学校（5年・英語活動）	18
東吾妻町立東小学校（3年・総合的な学習の時間）	19
昭和村立東小学校（5年・家庭）	20
桐生市立南小学校（4年・音楽）	21
太田市立藪塚本町南小学校（2年・生活）	22
3 授業以外での活用事例	
伊勢崎市立境小学校（キャリア教育）	23
富士見村立白川小学校（読み聞かせ）	24
高崎市立矢中中学校（部活動）	25
富岡市立高瀬小学校（陸上強化練習）	26
東吾妻町立東小学校（読み聞かせ）	27
昭和村立東小学校（環境整備）	28
桐生市立南小学校（放課後学習）	29
太田市立藪塚本町南小学校（環境整備）	30

学校支援センターの運営を効果的に進めるためのポイント

～これまでのモデル校での取組や学校支援センターコーディネーター等研修会より～

1 ボランティアをタイプ分けする



2 本当に必要なことをできるところからはじめる

学校支援センターは、ボランティアの活用による学校の教育活動や教育環境の充実、教職員の負担軽減をねらいとして創設されたものです。活用すること自体が目的ではないので、子どもたちにとって、また、教職員にとって、本当に必要なサポートを、できるところからはじめていくことが大切です。

3 人のつながりを重視する

初期のころは、「ボランティアバンクをつくりましょう」という形で推奨してきましたが、「登録したのに活用がない」というボランティアの方からのクレームや、「学校のニーズに合致しない」などという声も聞かれています。そこで、ボランティアバンクという形ではなくて、その都度必要に応じて、募集している学校も見られるようになってきました。また、一度、来ていただいた方のツテで、適任者を紹介いただき、ボランティアの輪が広がっている学校もあります。まず、できるところから、最初の一歩をはじめることが大切です。

4 既存の団体を利用する

ボランティアの方を探すのに、ピンポイントで、個人を探していくのは、なかなか難しいという声が聞かれますが、関係する既存の団体にお願いすると、比較的スムーズに人材確保が進むようです。小学校での読み聞かせのグループなどがそのよい例です。地域の公民館で活動する様々なグループや区長会、農業委員会、婦人会、福祉協議会等にもお願いしてみるとよいかもしれません。

5 データを共有する

これまで、どのような時期に、どのような教科、単元等で依頼したのか、そのとき依頼したのは誰で、どのような方法で依頼したのか（ボランティアを依頼するときの通知文）等のデータを共有しておくことが大切です。できるところからはじめて、それを少しずつ蓄積していくことで、学校支援センターの充実が図られていくのです。また、最初は大変かもしれませんが、ボランティアの心得・設置要項等をつくることで、その後の円滑な推進につながるようです。

6 学校にとっても、ボランティアにとっても、双方のメリットを考える

活動が長続きするには、ボランティアの方自身が活動の意味づけを感じることが大切です。やはり、ボランティアの方は、子どもと直接かかわれるような支援ができるとうれしいようです。また、ボランティアの方から「こんなことができますよ。」と言ってもらい、それと、学校側の「こんな人いないかな。」が合致すると効果的な活動になるようです。その際、事前に十分な打合せをしていくことが大切です。

7 ボランティアの主体性が発揮できる余地を残す

学習支援（授業支援）では、なかなかそうはいきませんが、それ以外の部分、特に環境支援では、ボランティアのグループに任せるようなしくみをつくるのもよいようです。読み聞かせ、図書館整備、花壇の整備、行事の飾り付けなどでは、たいへんうまくいっている例が報告されています。たとえば、入学式などの飾り付け用で、「この壁面をこのような材料を使って飾り付けてほしい。」と依頼してみるのも効果的だそうです。

8 ゲストティーチャー型のボランティアが入ることのよさをPRする

たとえば、戦争のことは、実際に体験していない教師でも知識として教えることはできますが、実際に体験したボランティアの方から同じお話を聞くと、それが子どもにとっての実感を伴った理解につながります。また、数学の授業で建築家の方に来ていただいたり、理科の天気学習のときに気象庁関係の方に来ていただいたりすると、学習内容に対する関心が高められるとともに、学習内容と生活との関連が明らかになり、学ぶ意義や必要性を感じさせることができます。

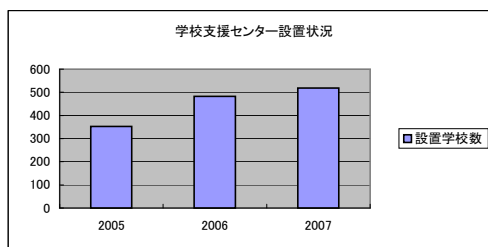
学校支援センター運営推進状況

平成19年5月1日現在

(調査対象：市町村立小学校・中学校・特別支援学校 計520校)

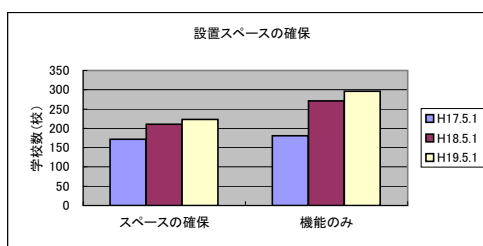
1 学校支援センター設置状況

	設置学校数	設置率
H17.5.1	353	67.9%
H18.5.1	482	92.7%
H19.5.1	519	99.8%



2 学校支援センター設置スペース（学校数）

	スペースの確保	機能のみ
H17.5.1	172	181
H18.5.1	211	271
H19.5.1	223	296



3 連携推進担当者設置状況（学校数）

	校務分掌に位置付けている	割合
H17.5.1	506	97.3%
H18.5.1	509	97.9%
H19.5.1	515	99.0%

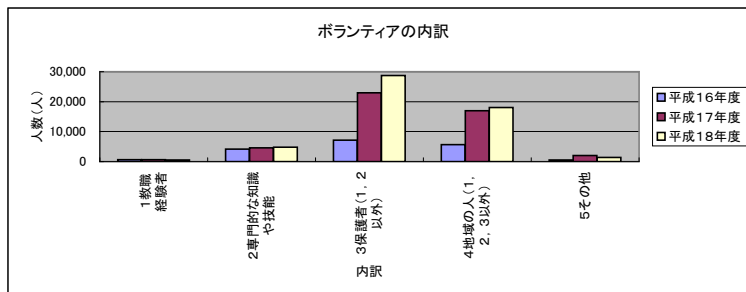
4 連携推進担当者内訳（人数）

	教頭	教務主任	教務主任外の教諭【授業時数・校務分掌軽減あり】	教務主任外の教諭【授業時数・校務分掌軽減なし】	その他
H17.5.1	98	214	16	188	6
H18.5.1	108	222	22	184	0
H19.5.1	117	234	14	182	9

(以下5～7までは、それぞれ平成16・17・18年度実績)

5 ボランティアリーダーの育成（学校数）

	育成できた	割合
平成16年度	135	26.0%
平成17年度	135	26.0%
平成18年度	121	23.3%



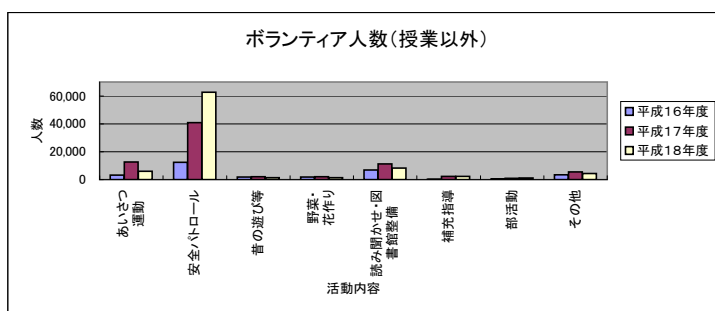
6 ボランティアの内訳(人数)

	1 教職経験者	2 専門的な知識や技能	3 保護者(1, 2以外)	4 地域の人(1, 2, 3以外)	5 その他	合計
平成16年度	645	4,184	7,126	5,635	514	18,104
平成17年度	648	4,609	22,962	16,932	1,978	47,129
平成18年度	570	4,809	28,677	18,000	1,390	53,446

7 学校におけるボランティアの活用

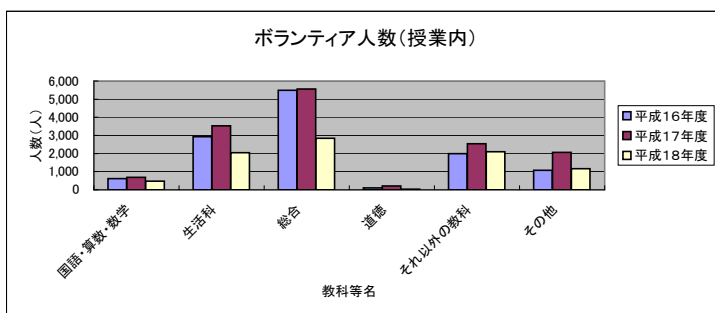
授業以外（人数）

	あいさつ運動	安全パトロール	昔の遊び等	野菜・花作り	読み聞かせ・図書館整備	補充指導	部活動	その他	授業以外合計
平成16年度	3,290	12,342	1,805	1,861	6,935	175	443	3,530	30,381
平成17年度	12,698	40,757	2,099	2,037	11,315	2,306	813	5,406	77,431
平成18年度	5,898	62,686	1,362	1,298	8,222	2,258	1,245	4,266	87,235



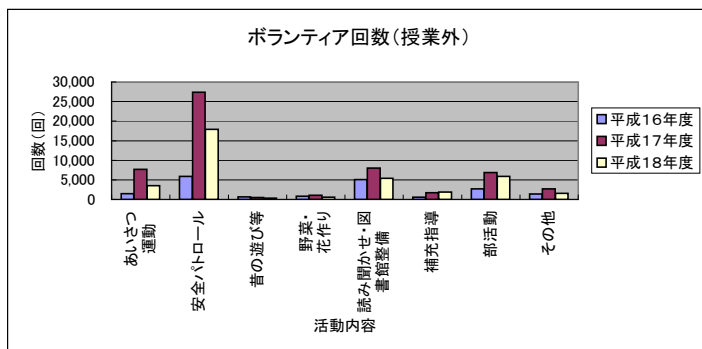
授業内（人数）

	国語・算数・数学	生活科	総合	道徳	それ以外の教科	その他	授業内合計
平成16年度	611	2,936	5,488	102	1,989	1,081	12,207
平成17年度	692	3,536	5,561	204	2,543	2,058	14,594
平成18年度	481	2,047	2,839	35	2,095	1,168	8,665



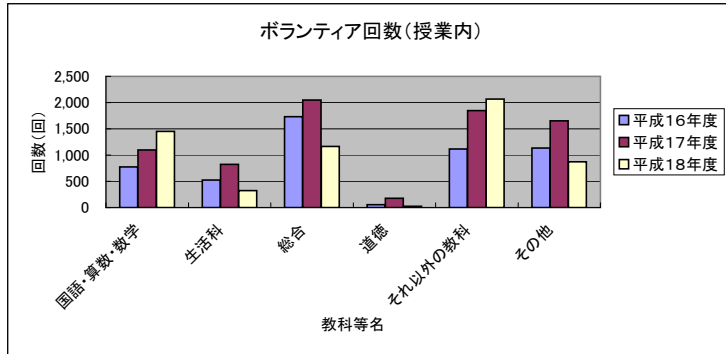
授業以外（回数）

	あいさつ運動	安全パトロール	昔の遊び等	野菜・花作り	読み聞かせ・図書館整備	補充指導	部活動	その他	授業以外合計
平成16年度	1,511	5,921	665	802	5,063	583	2,716	1,361	18,622
平成17年度	7,663	27,398	512	1,032	7,997	1,722	6,854	2,696	55,874
平成18年度	3,525	17,922	308	576	5,421	1,906	5,864	1,563	37,085



授業内（回数）

	国語・算数・数学	生活科	総合	道徳	それ以外の教科	その他	授業内合計
平成16年度	777	523	1,733	54	1,114	1,137	5,338
平成17年度	1,100	822	2,049	178	1,849	1,652	7,650
平成18年度	1,449	321	1,166	26	2,069	873	5,904



* ボランティア活動延べ総数

	延べ人数 総合計	延べ回数 総合計
平成16年度	42,588	23,960
平成17年度	92,025	63,524
平成18年度	95,900	42,989

8 スクールサポートボランティアバンク設置状況（教育委員会数） 9 スクールサポートボランティア登録数（教育委員会：登録人数）

校種	設置している	割合
H17.5.1	19	32.8%
H18.5.1	14	35.9%
H19.5.1	9	23.7%

	人	60歳以上 (内数)人
H17.5.1	3,786	1,482
H18.5.1	8,597	1,565
H19.5.1	3,887	1,756

10 スクールサポートボランティア登録者の内訳（教育委員会：登録人数）

	1 教職 経験者	2 専門的な 知識や技能	3 保護者 (1, 2以 外)	4 地域の人 (1, 2, 3以外)	5 その他
H17.5.1	241	1,125	1,119	1,253	48
H18.5.1	228	1,289	3,393	3,447	240
H19.5.1	172	669	1,427	1,633	33

伊勢崎市立境小学校

月	具 体 的 な 事 業 内 容	
5	理科	実験の指導補助〔6年〕
6	生活科 社会科 家庭科	町探検グループ活動の支援・協力〔2年〕 バス探検支援・協力〔3年〕 被服と生活の授業補助〔6年〕
7	学習支援 安全	夏休み勉強塾の赤ペン先生〔全学年〕 夏季休業中のプールの監視
8	安全	夏季休業中のプールの監視
9	学級指導 図工	キャリア教育（中学生）〔6年〕 紙粘土工作の補助〔6年〕
10	安全 安全 音楽 安全	持久走大会（試走）の走路安全補助〔全学年〕 持久走大会の走路安全補助〔全学年〕 歌詞の書き取りの赤ペン先生 「子ども安全の家」スタンプラリー〔1年〕
11	行事（学級指導） 行事 行事 社会科 学級指導	キャリア教育（高校生・専門学校生・大学生）〔6年〕 【事例2】 ミニミニリサイクルバザー〔全学年〕 ふれあいコンサート〔全学年〕 商店街の見学支援・協力〔3年〕 虹の会（読み聞かせ）と学級のコラボレーション企画〔5年〕 【事例1】
1	社会科	ほうれん草農家の見学協力〔3年〕
2	生活科 学級指導	昔遊び活動の支援〔1年〕 キャリア教育（社会人）〔6年〕
3	総合学習	車いす体験の補助〔5年〕
通年	学習支援 安全 安全 クラブ活動 クラブ活動 クラブ活動 家庭科 国語科 校内整備	読み聞かせ（毎週月・水・授業自習時・学級懇談の時間）〔全学年〕 校外パトロール 交通安全指導（朝の交通安全指導・放課後交通安全指導） 華道・茶道クラブの指導補助〔4～6年〕 手芸クラブの指導補助〔4～6年〕 金管クラブの指導補助〔4～6年〕 ミシン指導補助〔5・6年〕 書写の指導補助〔3～6年〕書き初め大会指導補助〔3～6年〕 壁のペンキ塗り（6月・7月）、校庭整備（7月、9月）

富士見村立白川小学校

月	具 体 的 な 事 業 内 容
6	農業体験 田植え指導（５年生） 総合学習 赤城山に住む人々について（４年生）
7	学習支援 宿泊学習での星空の観察、野外炊飯（４年生） 総合学習 赤城山に住む人々について（４年生） 環境整備（草むしり）
9	社会科 自動車工場見学（５年生） 総合学習 点字学習（４年生） 〃 高齢者疑似体験（車イス、ブラインドアイ）（４年生）
10	農業体験 稲刈り指導（５年生） 環境整備（草むしり） 総合学習 パソコン指導（１，２，４，６年） 国語 戦争体験の話（３，４年生） 総合学習 赤城山に住む人々について（４年生）
11	総合学習 パソコン指導（１，２，４，６年） 社会科 船津伝次平について（４年生） 家庭科 ミシン補助（５年生）
12	国語 書き初め指導（３～６年） 総合学習 パソコン指導（１，２，４，６年）
1	国語 書き初め指導（３～６年） 環境整備（卒業式プランター作り） スキー教室 講師（５，６年生） 体験活動 昔遊び（１年生）
通年	放課後学習室 お話の森（本の読み聞かせ） 防犯パトロール

高崎市立矢中中学校

【授業における活用】

月	具 体 的 な 活 動 内 容
通 年	1～3年美術授業 TT、全学年の美術授業運営への準備
6.7.9.10	1年家庭科裁縫授業
10.11	2年理科授業
12	1年書写授業
1	3年美術篆刻授業
1.2.3	1年家庭科 布草履づくり

【学校行事・体験活動・部活動等における活用】

月	具 体 的 な 活 動 内 容
通 年	生徒教育相談（家庭訪問を含む）不登校生徒のカウンセリング
5	1年生総合・福祉体験授業、車椅子バリアフリー体験 全学年福祉体験授業、講演会（車椅子バスケット選手） 薬物乱用防止教室講演
6	バレーボール大会支援
8	美術部壁画制作支援
9	2年生やるベンチャー事前指導および講演、高崎消防署救急隊員
10	文化祭（雄飛祭）支援
12	持久走大会支援

【その他、環境美化・パトロール等校外における活用】

月	具 体 的 な 活 動 内 容
通 年	環境美化、校庭清掃（剪定、塗装、ペチュニア栽培） 地域安全パトロール 地域清掃
6	環境整備、開栓前清掃及び、プール修繕（塗装）

富岡市立高瀬小学校

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	共通
4月	読み聞かせ 《業前》 学校ジャングル 探検《体育》		学校の周り 《社会》				
5月	読み聞かせ 《業前》 みんなの遊び場 (桐淵公園に行 こう)《生活》	夏野菜を育てよ う《生活》	鉄棒《体育》 高瀬っ子探検を しよう《総合》 リコーダー講習 《音楽》	米作り(もみま き)《総合》	グラウンドゴル フ体験《総合・ 福祉》		
6月		校外学習(野菜 栽培/鉢上げ体 験/小動物ふれ あい体験)《生活》	自転車教室《学 行》	米作り(田植え) 《総合》	インタビュー活 動《国語》	自転車クラブ 《課外活動》 歴史発見ウォー クラリー《総合》	
7月	水泳《体育》					ナップザック作 りミシン操作 《家庭》	
8月							草むし り・庭木 の剪定
9月	鍵盤ハーモニカ 《音楽》	秋蒔き野菜を育 てよう《生活》	長さ《算数》		陸上記録会練習《課外活動》【事例 2】		
10月	鍵盤ハーモニカ 《音楽》 かってみたいね 《生活》	もっと高瀬を知 りたいね《生活》		米作り(稲刈り /脱穀/もみす り)《総合》		まかせてね、今 日のご飯《家庭》	児童用 机・椅 子高さ 調節 図書修 理・整 理
11月	秋のたからもの 《生活》 持久走練習・大 会《体育》	持久走練習・大会 《体育》	持久走練習・大 会《体育》	持久走練習・大 会《体育》	ミシン操作 《家庭》 英会話《総合》 【事例1】 持久走練習・大 会《体育》	座繰り体験 《総合》 持久走練習・大会 《体育》	
12月			倍の計算(テー プ作り)《算数》	収穫感謝祭 《総合》	ミシン操作 《家庭》		
1月	昔からの遊び 《生活》 輪・竹馬《体育》 ペタペタペッタ ン《図工》		なわとび・跳び 箱《体育》 パソコン《総合》				図書修 理・整 理
2月			そろばん《算数》	私たちの誇り・ 富岡製糸《総合》	生命を育む講座 《学活》	電流の働き《理 科》	
3月	読み聞かせ 《国語》	読み聞かせ 《国語》 パソコン《学活》	読み聞かせ 《国語》	読み聞かせ 《国語》	読み聞かせ 《国語》	読み聞かせ 《国語》 伝えよう!あり がとうの気持ち 《家庭》	
通年	毎月曜日の下校時:安全パトロールの実施。 毎週水曜日、全校読書の時間:1年生への読み聞かせの実施						

東吾妻町立東小学校

月	具 体 的 な 活 動 内 容
5	○野菜作り～10月（生活改善グループ・保護者） 〈3年：ダイコン、トマト他 4年：サツマイモ、ジャガイモ他 5年：カボチャ、 トマト他 6年：コンニャク、スイカ他 けやき学級：ニンジン他〉
6	○稲作り（学習活動支援グループ） 〈5年：田植え〉 ○七夕集会用の竹取り（生活改善グループ）〈児童会〉
7	○山の村交流会（学校行事支援グループ・保護者）〈5年：竹串作り、鱒釣り、バーベキュー〉 ○お楽しみ会（読み聞かせグループ）〈全校：大型紙芝居、ゲーム、大型絵本〉
8	○水泳指導（学習活動支援グループ） ○図書整理（読み聞かせグループ）
9	○藍染め（学習活動支援グループ・保護者）〈3年、1年、4年〉 ○野菜作り学習（生活改善グループ） 〈4年〉
10	○地域文化学習（学習活動支援グループ）〈6年〉 ○稲作り（学習活動支援グループ） 〈5年：稲刈り〉 ○陸上練習補助（部活動支援グループ）
11	○収穫祭支援（生活改善グループ・保護者） 〈5年：カボチャの煮付け作り 6年：コンニャク作り、けんちん汁作り〉 ○遠足の引率（学校行事支援グループ）〈5、6年〉 ○マラソン練習補助（部活動支援グループ） ○マラソン大会賞状書き（学校行事支援グループ） ○稲作り（学習活動支援グループ） 〈5年：脱穀〉
12	○上毛カルタ指導（部活動支援グループ）
1	○餅つき（学習活動支援グループ） 〈5年〉
2	○スキー教室支援（学校行事支援グループ）〈4年、5年、6年〉
3	○ミニバスケット指導（部活動支援グループ）
通年	○通学路安全パトロール（学校安全ボランティアグループ） ○読み聞かせ（読み聞かせグループ）〈各学年：毎月最終月曜日、朝〉 ○算数学習支援（学習活動支援グループ）

昭和村立東小学校

月	学年	活 動	教 科 等	支 援 の 内 容
5	5	田植え	総合	・ボランティアさんの田を借りて、田植え指導。
	3	こんにゃく植え	総合	・学校の畑にこんにゃく玉を植える指導。
	6	茶道体験	社会	・室町文化の学習で茶道を体験する。作法の指導。
6	1・2	水泳安全指導	体育	・水泳指導と安全指導支援。1年生着替え支援。
7	職員	昭和音頭		・昭和音頭指導。
9	5	稲刈り	総合	・稲の刈り方、縛り方、はって掛けなどの指導。
	2	じゃがいも料理	生活	・カレー作り実習補助。
10	2	村探検	生活	・通りに面した施設の移動に伴う安全支援。
	6	華道体験	社会	・華道体験指導。
11	1	花苗植え	生活等	・パンジー花苗の植え替え作業補助。
	3	こんにゃく作り	総合	・こんにゃく作り実習補助。
	3	こんにゃくパーティー	総合	・こんにゃく料理実習補助。
	1	さつまいも料理	生活	・サツマイモ料理実習補助。
	4	地域のことを知ろう	社会	・赤城の開拓についての指導。
	6	歯磨き指導	学活	・歯磨き指導。
	5	ミシン指導	家庭科	・ミシンの実習補助。
12	1・2	英語補助	英語活動	・英語活動補助。
	3～6	書道活動	国語	・書き初めの指導補助。
1	4	障害について	総合	・点字や手話の指導。
3	4	郷土料理作り	総合	・郷土料理の実習補助。
年 間	1～3 全校	読み聞かせ 登下校パトロール		・年間9回低学年を対象の読み聞かせ。 ・随時

桐生市立南小学校

<教育活動支援部>

① 授業等支援隊（15名）

4年の音楽科の授業で、1単位時間のTT指導（尺八と三味線演奏と民謡指導）を行った。また、市音楽学習発表会のための練習及び当日のピアノ伴奏に8回ほど支援いただいた。

クラブ活動（調理クラブ）で2単位時間、第1回は、調理クラブでパフェづくり、第2回は、サンドウィッチづくりの支援をいただいた。

社会科の「郷土に伝わる願い」でゲストティーチャーから昔の地域の様子について講話を他5名の方から班別調べ学習で話を伺った。

② 読み聞かせ支援隊（13名）

入学当初の「朝の読書」の時間に読み聞かせを、5月からは月曜日の昼休みに「子ぐま館」で、本の読み聞かせやパネルシアター・人形劇、大型の紙芝居などを行った。

③ 放課後学習教室『ひまわり』支援隊（5名）

月の第2、第3、第4金曜日の放課後に、一年生から六年生までの希望者を対象として、放課後学習教室『ひまわり』を年間20回程行った。

④ ほっとルーム支援隊（5名）

年間4回、「ほっと教室」を開催し、係分担に応じた支援をいただいた。

⑤ 総合的な学習支援隊（2名）

総合的な学習の時間に5年生「カスリン台風」、6年生「国際理解教育」で講師を招き講話をいただいた。

<環境整備支援部>

⑥ 環境美化支援隊（7名）

年間、必要に応じて随時、花壇や栽培園の除草と管理及び生活科での栽培指導などを含め美化活動を行った。

<学校安全支援部>

⑦ 生活安全支援隊（15名）

学期ごとの集団下校や登下校時の交通安全指導を随時行った。

⑧ 校外学習支援隊（11名）

5年生や特別支援学級の校外学習時に、荷物の搬入・搬出等の支援を行った。

太田市立藪塚本町南小学校

活 用 事 例	効 果 (事業の推進によって明らかになったこと)
<p>1 読み聞かせボランティア</p> <p>(1) 毎月1回金曜日の朝行事で、低・中・高学年毎に読み聞かせを実施。(放送室スタジオ)</p> <p>(2) 年2回(6・12月)、朝行事で読み聞かせ集会を実施。児童会と図書委員会が主体となり、練習の成果を発表。(体育館)</p> <p>2 安全支援</p> <p>(1) 学校支援隊安全班による登下校時における防犯パトロール活動。現在、地域の方16名で編制されているが、拡大を検討中。</p> <p>(2) 民生児童委員さんや更正保護女性会の方々と連携した校区内における交通安全・防犯パトロール活動。</p> <p>(3) P T A主体の交通安全・防犯パトロール活動。(下校時：通年)</p> <p>3 環境・施設整備</p> <p>(1) 西風により土が吹きだまってしまう校庭に、保護者や地域の方々が重機を導入しての校庭整地。</p> <p>(2) 地域のボランティアグループと連携しての緑化・花いっぱい運動。</p> <p>(3) 老人会の協力を得て樹木の剪定。</p> <p>(4) 地域の方の協力を得て「ウサギの運動場」を新設。</p> <p>4 授業支援(主なもの)</p> <p>(1) 2年生の生活科において専門家を招き、農協の協力を得て「さつまいも栽培」を実施。</p> <p>(2) 5年生は、農協などと連携し「田植え・稲刈り体験授業」を実施。収穫した米を地域の一人暮らしの老人宅に送る。また、地域の方の指導により、「親子絵手紙教室」を実施。</p> <p>(3) 6年生の総合的な学習において、地域の様々な人々と触れ合ったり、施設などで実習をしたりする。</p> <p>5 地域・諸団体との連携</p> <p>(1) 「藪塚本町南小学校健全育成並びに交通対策安全協議会」が設置され、交通安全協会・交通指導員・区長・交番所長・少年補導員・青少年育成推進員・民生委員・子育て関係者・行政代表等が集まり、児童の登下校や通学路の安全と保全について話し合う。</p> <p>(2) 「東毛ラグビースクール」や「藪塚本町グランドゴルフ協会」の協力を得て、月1回の「土曜スクール」を実施。</p>	<p>校区内外を問わず、地域の多くの方々に協力していただき、学校の教育力の質的向上、児童の安全確保等を図ることができた。</p> <p>(1) 読み聞かせ指導に参加してくれた講師の実践は、読み聞かせを朗読から芸術にまで高めてくれるものであり、その指導を受けられた児童は幸せであると言えよう。また、専門講師による多くの体験授業は、その有用性を教員が再確認することになり、教育課程編成上の大きな刺激となっている。</p> <p>(2) 「藪塚本町南小学校健全育成並びに交通対策安全協議会」の存在が大きく、これを核に民生児童委員・更正保護女性会の方々と接する機会が増えた。形だけでなく、数多く接することにより信頼感が増し生徒指導上有益な情報も得ることができた。</p> <p>(3) 環境・施設整備面での支援は、本校の立地上、特にありがたいものであった。専門業者に頼めば大変高額になったであろう校庭整地やウサギの運動場の新設、学校課題でもある中庭の整備(美)が、驚くほどのスピードで進んだ。地域の方々の「おらが町のおらが学校」という心意気を十分感じさせていただいた。「花と緑にあふれる学校」をテーマに、本校の特色を打ち出す良い機会ととらえたい。</p> <p>(4) ひとつ地域の方に協力を依頼すると次々とその輪が広がっていく。地域の教育力を有機的に関連させ、有効に活用できるシステムづくりが必要である。</p>

1 ボランティアの活用目的

日常的に読書指導（本への興味を深める）を行っているが、子どもたちの心に響くような指導は難しいと感じていた。そこで、普段、読み聞かせを行っている方々に本を紹介して頂き、本のよさや読書のすばらしさを語ってもらうことにより、より効果的に指導できると考えた。

2 ボランティアの方の立場と人数 読み聞かせ（虹の会）8人

3 ボランティアが決まるまでの経緯

- ①当該学年担当者から連携推進担当者に企画書を説明。
- ②連携推進担当者から虹の会のリーダーに相談。
- ③以後は、当該学年担当者との直接連絡。活動メンバーは、リーダーが募る。

4 事前打ち合わせの時間と内容

10月中旬	子供にアンケートをとって、過去の読書傾向、現在の興味関心の方向性、今後の読書の展望などを分析し、虹の会のリーダーに知らせる。
10月下旬 (放課後)	学校の支援センターで、ねらい、授業の流れ、コーナーの設置場所、紹介する本、紹介の仕方、事前準備等について打合せを行う。(担当とリーダー)
活動当日	リーダーが活動場所（図書室）で、メンバーと本時の流れを相談する。

5 本時の学習

ねらい さまざまな種類の読み物の紹介を聞くことを通して、自分に合った本の世界をさらに深めたり広げたりすることにより、読書への関心を高める。

学習活動	支援及び留意点	□ボランティア
1 本時の学習内容や授業の流れ、各パビリオンの開催場所等を知る。	○事前に担任が教室で説明する。	□持ち寄った本、図書室の本や準備物を自分のパビリオンに並べる。
2 あいさつ	○子どもたちは、自分の書いたアンケートを見て、自分の行くパビリオンを確認しておく。1つは、一番興味のあるところ、もう一つは今日、興味をひかれたところとする。	□代表者が簡単にパビリオンの説明をする。
3 各パビリオンに分かれて、本の紹介を受ける。	○前半（10分間）は虹の会の人の話を聞く。後半（5分間）は質問をする。	□思い思いの方法（あらすじ、本との出会いエピソード、導入部の読み聞かせ、感想文、他メディア等）で紹介する。
4 次のパビリオンに移動し、3と同じ活動をする。	○移動中は、興味をひかれたパビリオンの本を手にとったり、そこの担当の人と話をしてもよいこととする。	
5 各パビリオンを自由に訪れる。 (フリータイム)	○後半は、歴史や科学など紹介者がおらず、本だけ置いてあるパビリオンや3で強く関心をもった本を手にとって読んでもよいこととする。	
6 あいさつ	○まだ、見ていないパビリオンや興味のあるパビリオンを自由に訪れて、担当者と会話をしたり、本を手にとったりしてよいこととする。	
7 7 まとめ	○2の留意点と同じ。	
	○教室でワークシートにこの日の活動内容や感想をまとめる。	

6 活用効果と課題

- 子どもたちは授業後の感想に、本についての考えや興味が広がったことを書いており、週が明けての朝読書の時間には、いつにも増して集中する姿が目についた。
- 虹の会の方々は、子どもたちの真剣な態度に満足し、授業後の感想を読んでもとても喜んでいました。
- 本授業の成功には、本の選定が重要な位置を占めているが、今回はボランティアの方々をお願いした部分が多かった。これからは、教員とボランティアで協力して本を選ぶ必要がある。

単元名 「村の発展につくした人々」

1 ボランティアの活用目的

児童が郷土学習の一つとして「船津伝次平」について学習していく中で、業績の一つである農業に関しては教科書に記載が多数ある。もう一つの業績である寺子屋については、講師より詳しい地域の方の知識や資料を児童に説明してもらいたいと考えた。

2 ボランティアの方の立場と人数

地域の方 1名

3 ボランティアの方が決まるまでの経緯

- ①当該学年の担当から「船津伝次平」について地域の方に依頼できないかコーディネーターに相談。
- ②コーディネーターから「船津伝次平」や郷土に詳しい柳井先生に依頼。

4 事前打ち合わせの時間と内容

11月21日 講師の柳井先生のお宅に電話で授業の依頼をして、内容等を確認。

5 本時の学習

ねらい 郷土の偉人船津伝次平について研究している郷土の先生にお話を聞くことで、副読本からの読み取りにさらに深みを増し、また身近に感じ誇りに思う気持ちをはぐくむ。

学 習 活 動	支 援 及 び 留 意 点 □ボランティア
<p>1 本時の学習課題 「船津伝次平の寺子屋について」学ぶ。</p> <p>2 講師の方からの質問（船津伝次平や寺子屋についてどのようなことを知っていますか）に答える。</p> <p>3 講師の用意したスライドがどのような過程で制作されたのか説明を聞く。</p> <p>4 船津伝次平の寺子屋について理解を深める。</p>	<p>○本日の講師は、村内在住で船津伝次平に関して著書もあり、郷土の歴史に詳しい方で、教科書にはあまり載っていない船津伝次平の寺子屋について、教えていただくことを児童に伝える。</p> <p>○スライドの準備</p> <p>○スライドの操作</p> <p>□事前に講師の用意したプリントに基づいての質問</p> <p>①船津伝次平についてどんなことを知っているか</p> <p>②寺子屋とは何か</p> <p>□講師の用意した、船津伝次平の寺子屋の再現スライドをもとに説明する。</p> <p>□スライドの中にでてくる資料の実物を見せる。</p> <p>□スライド終了後質問等をうける。</p>

6 活用効果と課題

①活用効果

児童の感想：昔の学校は厳しい、寺子屋では紙を大切にしていた事を知った、もっと話を聞きたかった

教師の感想：船津伝次平については副読本にはかなり詳しく記述があるが、今回お話をさせていただいたことによって、人物の偉大さ・すばらしさが実感できたと感じます。手習草子の実物を見せて頂いたり、スライドで映像的に説明していただいたことももちろんですが、柳井先生ご自身が伝次平を深く研究されている、その業績・お人柄、学問の尊さ、謙虚な心などを児童は感じ取っていました。

ボランティアの感想：とてもよく聞いてくれました。

②課題

- ・ボランティアとの日程・時間と学習内容等、連絡調整や打ち合わせに時間がかかる。
- ・ボランティアの能力を最大限に発揮していただくための、校内における機器の活用と、それに関わる本校の教職員の支援のあり方が大切である。

単元名) 化学変化と物質の質量 (化学変化と原子分子)

1 ボランティアの活用目的

本校の理科では、実験の個別化を図ることで、生徒一人ひとりが意欲的に授業に取り組み理解が深められるよう、「一人1実験」を目指して授業改善に取り組んでいる。そのための安全面の確保や遅れがちの子への支援、実験器具・薬品等の速やかな片付け等のために、学校支援ボランティアの活用を図る。

2 ボランティアの方の立場と人数

地域の方3名、(退職校長1名、企業退職者2名)

3 ボランティアが決まるまでの経緯

支援センターから、広く地域の方に呼びかけ支援をお願いしたが、希望がなかったため、支援員の個人的なつながりで依頼した。

4 事前打ち合わせの時間と内容

授業を行うまでに顔合わせを含めて3回の打ち合わせを行う。

○ 10月15日(月) 15時~16時

学校における個人情報の守秘義務等について学校長より簡単に説明するとともに、本校の理科の取り組みについて、また、当日の授業で手伝ってもらいたい内容を授業担当者より説明する。

○ 10月22日(月) 15時~16時

指導案を使い、授業の流れ・支援者の動き等を打ち合わせる。理科における器具や薬品等の取り扱い方についても簡単に説明する。

○ 11月5日(月) 15時30分~16時30分

模擬授業を行い、動きや支援の仕方を確認する。

5 本時の学習

ねらい 化学変化の前後の物質の質量変化を調べるために「個別実験」を行ったり、発表用ボードに貼りながら意見交換を行うことで、化学変化の前後では質量は変化しないことに気付くことができる。

展 開 実験: 第1理科室【前半】 まとめ: 第2理科室【後半】

学習活動	時間	指導、支援、留意点	評価項目と方法
○本時の課題確認 ・炭酸水素ナトリウム＋塩酸 ・塩化アンモニウム＋水酸化ナトリウム＋水 ・水酸化バリウム＋硫酸 ・炭酸ナトリウム水溶液＋塩化カルシウム水溶液	5	○本時の実験の目的を確かめる。 ○自分が行う実験の手順を確かめさせる。 ○観察・実験レポートを見直させ、実験の予想を確かめさせる。	
○実験を行う ・炭酸水素ナトリウム＋塩酸 A-1班 A-2班(8名) ・塩化アンモニウム＋水酸化ナトリウム＋水 B-1班 B-2班(9名) ・水酸化バリウム＋硫酸 C-1班 C-2班(10名) ・炭酸ナトリウム水溶液＋塩化カルシウム水溶液	20	<p style="text-align: center;">ボランティアの動き</p> ○実験器具の確認 ○安全めがねや手袋の装着 確認 ○安全めがねや手袋の着用で薬品の取り扱いに十分注意をうながす。 ○化学変化が起こっているときの様子を「最初は・途中は・最後は」の観点でじっくり観察し、記録するようにさせる。 ○化学変化を起こす前と後の質量変化をしっかりと記録するようにさせる。 ○机間指導を行いながら、生徒一人一人の実験の安全確認を十分に行う。 ○実験手順でとまどいのある生徒は班で相談させたり、一緒に操作することで自分の力で解決ができるように支援・助言	

<p>D-1 班 D-2 班 (10名)</p> <p>○学習道具を持って第 2 理科室へ移動する</p> <p>○実験結果の報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班員に自分の実験結果を報告 ・班員から質問を受ける <p>○実験の結果を付箋に書く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の実験結果を書く ・班員からの質問事項も書く ・不安な内容は赤い付箋に書く <p>○実験の結果を発表用ボードに貼る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・赤い付箋が貼られたら一緒に実験をした班が集まり「相談会」を開いて解決する。 ・ボードに付箋を貼りながら友達の考えを見て知り自分の考えを深める。 <p>○報告書にまとめる</p> <p>○次時の予定を聞く</p>	<p>を行う。</p> <p>ボランティアの動き</p> <ul style="list-style-type: none"> ○硫酸や塩酸の扱いについての安全確認をする <p>2</p> <ul style="list-style-type: none"> ○アンモニア発生時の風船を確認する。 <p>2</p> <ul style="list-style-type: none"> ○二酸化炭素発生時の瓶のふたを確認する。 <p>0</p> <ul style="list-style-type: none"> ○質量測定をするために生徒が移動するときの安全確認。 <p>○移動は静かに素早く行わせる。</p> <p>ボランティアの動き</p> <ul style="list-style-type: none"> ○実験器具の後片付けを行う。 <p>○実験レポートに自分が調べた化学変化についての結果を報告させ、班員から疑問を投げかけてもらう。</p> <p>○実験から感じたことは何でも付箋に書いて貼ってもよいことを伝え、たくさんの考えが発表ボードに貼られるようにする。</p> <p>○化学変化が起こる前後で質量がどのように変化しているのかを自分が行った実験以外からも見いださせたい。</p> <p>○気体が発生する化学変化も沈殿が発生する化学変化でも質量変化がないことを発表ボードに貼られたたくさんの付箋から気付かせ、レポートに書かせたい。</p> <p>3</p> <p>ボランティアの動き</p> <ul style="list-style-type: none"> ○片付けを終え、第 2 理科室へ移動する。 <p>○次の時間に発表ボードをもとにしながら、それぞれの化学変化の実験ごとに屋台村形式で発表を行う説明をする。</p> <p>必要であれば家で書き足すよう伝える。</p>	<p>【思考】</p> <p>個人実験の結果から化学変化の前後での質量の関係を見いだすことができる。</p> <p>◇この基準に達しない赤い付箋を貼った生徒へは①ボードをよく見る②相談会議をするなど支援する。</p>
--	--	---

6 活用効果と課題

今回の授業では、たくさんの薬品や器具を使い個人実験を行ったわけであるが、教師一人ではとてもこのような実験を行う事は出来ない。支援ボランティアを活用する事で、安全面の確保、準備や片付け、実験が苦手な子への支援等、多くの点で有功であった。また、ボランティアの活動によって教師の負担が減り、実験がスムーズに行えた事で、考察にかける時間も十分に確保する事が出来た。

さらに生徒も、安心して実験を行うことができ、またその結果についても自信をもって発表することができた。

1 ボランティア活用目的

児童が英語の正しい発音やイントネーションを耳にして正確に身に付けられるように、発音の仕方やアクセント等の師範を示してもらったこととした。

2 ボランティアの方の立場と人数 保護者 1名

3 ボランティアの方が決まるまでの経緯

- ① 当該ボランティアは数年前から「英語活動」で学校支援ボランティアとして登録されている。オーストラリアからの派遣事業で来た生徒の通訳やALTの補助、クラブ等を担当してきていた。高瀬小の臨時職員としても授業を行って来ていた。
- ② 当該学年担当者と連携推進担当者が相談し、学年担当が直接連絡。

4 事前打ち合わせの時間と内容

- 11月 2日 電話で、授業のねらいや支援してほしいことを伝え、了承を得る。
- 15日 来校してもらい、授業の細かい流れについて相談する。
- 17日 指導内容・分担の確認。

5 本時の学習

ねらい どこから来たのかを尋ねる英語表現に慣れ親しむ。

過程	学 習 活 動 評価項目（評価方法）	時 間	教師の支援および留意点	
			担任	ボランティア
導 入	・あいさつをする ・英語のじゃんけんを復習する。 (Rock, scissors, paper, 1, 2, 3!)	10	・あいさつを交わし、しっかり言えたことを認めたり、英語のじゃんけんをしたりして、児童の心をほぐせるようにする。	・笑顔で楽しい雰囲気を作り、あいさつをする。 ・楽しくじゃんけんをし、児童の心をほぐす。
展 開	Review ・世界の国の言い方を知り、発音を繰り返し練習する。Italy ・Australia・China・Germany	15	・学習課題を知らせる。 ・ボランティアの口元に注意させ、よく見てしっかり聞くように助言する。	・国旗のカードを使い、確認しながら正しい発音を知らせる。 ・後について言うよう指示し、ゆっくり繰り返し発音する。
	・スキットを練習する。 Where are you from? I'm from ~ * ボランティアの後について * 2人組になって		・ボランティアとデモンストレーションを行う。 ・児童のそばで助言や賞賛を行う。 ・隣の児童と組んで、繰り返し練習させる。	・1つ1つ発音した後、リズムを付けて繰り返し発音させる。 ・児童の興味がわくよう国の特徴を一言付け加える。 ・上手に言えるようになったことを認める。
	Main Activity ・国旗集めゲームをする。	15	・ゲームの説明をする ・進んで聞けない児童やどうすればいいかわからない児童に支援する。 ・勝った児童やがんばった児童をみんなで拍手して認める。	・ワークシートを配る。 ・特に消極的な児童とのスキットを行う。 ・勝った児童やがんばった児童をみんなで拍手して認める。
終 末	・ボランティアの話聞く。 ・終わりのあいさつをする。	5	・終わりのあいさつをする。	・滞在した国の様子を話し、児童のがんばりを賞賛する。

6 活用効果と課題

- ・日本語での会話が可能であるため意思の疎通ができ、授業についての話し合いにおいて細かい部分まで理解してもらうことができた。
- ・外国人のALTよりも、児童がリラックスして英語活動を楽しむことができた。
- ・ボランティア自身の経験を話してもらうなど、児童の関心を高められた。
- ・総合の英語活動では、英語表現に慣れ親しむことを主なねらいとしているため、発音や正しい文法などについてはあまり触れないことになっている。しかし、ボランティアは英会話教師であるため、よりよい英会話を習得してほしいという気持ちをもっている。英語活動に限らずボランティアの方の思いを生かせるよう話し合いにより相互理解を深め、児童への支援を進められるようにすることが必要である。

1 ボランティアの活用目的

総合的な学習の中で畑作りをする中で、藍という植物は畑で簡単に栽培でき、染め物もできることを知った。畑に藍を栽培させ、その藍を使って染め物を作る体験を児童にさせてあげられないかと考えた。だが、教員には専門的な知識はない。そこで、地域に専門的な知識を持つ方がいれば指導をしていただきたいと考えた。

2 ボランティアの方の立場と人数

東地区草木染めクラブ会員 6名 保護者 11名

3 ボランティアの方が決まるまでの経緯

- ①第3学年の担任から嘱託員（コーディネーター）に藍染めができる指導者を捜してほしいと依頼がある。
- ②コーディネーターが地域の方からの紹介で「草木染めクラブ」のリーダーに連絡する。
- ③草木染めのリーダーからクラブの方々に呼びかけていただく。
- ④コーディネーターがリーダーと連絡を取り、日程・内容・時間・準備しておく物・支援して下さる方の人数など再確認する。
- ⑤コーディネーターが担任に決まった内容を伝え、担任から保護者の方へも呼びかけてもらう。

4 事前打合せの時間と内容

- 8月 3日 草木染めクラブのリーダーと学校にて打ち合わせを行った。日程や活動内容、参加学年、人数等相談した。
- 9月20日 2回目の打ち合わせを電話で行った。支援者の人数や藍染めで使うスカーフの注文依頼等確認をした。

5 本時の学習

ねらい 畑で育てた藍の葉から汁をしぼり染め物を作る体験を通して「草木染め」についての理解を深めるとともに、植物への興味・関心を高める。

学習活動	支援及び留意点	□ボランティア
1 本時のねらいをつかむ。	○畑から藍を収穫し、その葉から藍染めをスカーフにすることを知らせる。	□本日の作業の手順を説明する。
2 藍を収穫に畑へ行く。	○班ごとに畑に藍を刈り取らせ、学校に運ばせる。 ○鎌の使い方に注意させる。	□児童だけでは時間がかかるので、収穫や葉摘みを手伝う。
3 藍の葉を摘み、葉をミキサーにかけ、染め液を作る。	○葉を摘む班と、葉をミキサーにかけ、ミキサーを3、4個用意する。	□ミキサーは児童にさせず、教員と作業を行う。
4 染め液にスカーフをつける。	○たらいを4、5個用意し、順番に染め液につけさせる。 ・輪ゴムなどでしばって模様をつけさせる。（事前に用意しておく。）	□染め液のつけ方や日に当てる時間、回数等指導する。
5 スカーフを日に当てる。	○染め液につけたスカーフは、日に十分あてる。これを3回程繰り返す。	
6 まとめをする。	○スカーフを乾かすと完成であることを知らせ、ボランティアの方々に感謝の気持ちを伝える。	□教員とスカーフのアイロンかけをして作品を完成させる。

6 活用効果と課題

今回の取組では、ボランティアとの連絡・調整は嘱託員（コーディネーター）が行い、担任の負担を軽減することができた。児童の作業では、藍の収穫や葉の摘み取りなどに時間がかかってしまい集中力が欠ける場面もみられたが、ボランティアの方々の協力で楽しく作業することができた。藍染めでできたスカーフも綺麗にできあがり、児童も参加した保護者も喜んで頂けた。

今回参加して頂いたボランティアの人数は保護者も含めて17名であったが、時間的には余裕がなかった。たくさんのボランティアに参加していただいたが、役割分担など効率的な補助の工夫が今後の課題と考える。

1 ボランティアの活用目的

児童が自分で作りたいものを制作する時に、作り方を補助してもらったり、ミシンのトラブルを直してもらったりするためにボランティアを活用する。

2 ボランティアの方の立場と人数

地域ボランティア 4名

3 ボランティアの方が決まるまでの経緯

支援センターの嘱託員が、昨年までの支援ボランティアの方に連絡して了解を得た。

4 事前打ち合わせの時間と内容

11月7日 9:20～9:35 (15分) 自己紹介、今日の予定、支援内容についての確認

11月7日 10:25～9:45 (20分) 児童の様子からの反省と次時の支援内容の確認

11月8日 11:40～12:10 (30分) 今後の課題

5 本時の学習

ねらい 直線縫い、返し縫い、まち針の打ち方、縫い代の取り方など、既習の技術を使って自分の作りたい作品を作ることができる。

○おひるねクッション・・・・・・・・布の両端を丸くして片方の端が縫える。

○おべんとうつつみ・・・・・・・・2枚の布を縫い合わせ、ひも通しを半分まで縫える。

○ティッシュボックスカバー・・・・取り出し口が縫える。縫えた児童は立ち上がりまで縫える。

学 習 活 動	支援及び留意点	□ ボランティア
1 本時のねらいを確認する。 2 作業に入る。	○ねらいを達成したら友達を手伝うように話す。 ○前時の続きで行うが、縫う前には必ずボランティアさんや先生、友達に確認してから縫うようにさせる。 ○各テーブルを回って、ミシンの調子を見たり、児童の実態に応じて支援したりする。	□ 4人は3つの作品グループに分かれて支援する。 □ 作品別に、実態に応じて支援する。 ・縫い代の取り方 ・まち針の打ち方 ・縫い方等 ・下糸巻き、ミシンの調子
3 後片付け ・挨拶	○次回の内容を確認してから後片付けをさせる。 ○心を込めて挨拶をさせる。	□ 作り方の用紙を確認しながら作業を支援する。 □ 片付けを支援する。

6 活用効果と課題

<活用効果>

- ・一人一人の進度に合わせた多様な活動ができた。
- ・スナップのつけ方や縫い代の取り方など、児童が学習してないことや忘れてしまったことなども一人一人支援してもらうことができた。
- ・各グループにボランティアが入ったことで、教師は余裕を持って活動全体を把握したり、評価活動をしたりすることができた。
- ・6～7人に一人のボランティアが付いたので、児童とボランティアの交流が見られ、児童は安心して活動に取り組んでいた。

<課題>

- ・指導者のねらいをボランティアに明確に伝える必要がある。
- ・事前に打ち合わせの時間を十分にとって、学習内容をボランティアに伝える必要がある。

題材名：郷土の音楽に親しもう（「こきりこ節」、「斎太郎節」、「黒田節」、「祇園小唄」）

1 ボランティアの活用目的

邦楽については、担当教諭も十分な指導ができない。そこで、邦楽を専門にやってこられた方から日本各地の郷土の音楽（民謡）について、直に指導をいただき、和楽器の音色や民謡の発声法を学び、その特徴やよさを味わわせたいと考えた。

2 ボランティアの方の立場と人数

民謡教室の指導者（尺八及び三味線） 2名

3 ボランティアが決まるまでの経緯

- ① 当該担当教諭から、学校支援嘱託員に指導者について相談を受ける。
- ② 学校支援嘱託員が、知り合いの民謡指導者に連絡し、了解を得る。
- ③ 担当教諭が民謡指導者に連絡し、概略を説明する。

4 事前打ち合わせの時間と内容

電話で事前に話をしておき、授業当日、早めに来校いただき、授業の展開を示し、具体的に指導いただきたい内容等について、詳細に打ち合わせをした。

5 本時の学習

ねらい 日本各地に伝わる郷土の音楽に親しみ、その特徴を感じ取る。

学 習 活 動	支援及び留意点（□：ボランティア、◇：評価の観点）
○ 郷土の音楽に使われる楽器の音色や人の声の特徴を見つける ・ T3（三味線）の伴奏でT2（民謡）と一緒に「こきりこ節」をうたう ・ T2の発声の特徴を見つけ、模倣する ・ 楽器の名前を学び、その音色を聴く	□ 模範演奏をする ・ 独特な謡い回しに気づくよう助言する ・ どうしたらT2のような声が出せるか、いろいろ試してみる ・ 頭声的発声でないので、無理のない声を意識させる ・ （三味線、尺八、ささら、棒ささら、こきりこ、しめ太鼓、など） □ 三味線及び尺八の特徴について、具体的に視聴させる
○ 「こきりこ節」、「斎太郎節」、「黒田節」、「祇園小唄」を鑑賞する ・ それぞれの曲を聞き比べることで、音楽の特徴（速さ、雰囲気、伴奏楽器の様子などの違い）を感じるとともに、郷土の音楽を聴いてわかったことや感じたことをワークシートにまとめる	・ 郷土の音楽は、その土地の風土や生活に根付いたものであること。その土地の人々の心のよりどころであることにふれ、これからも伝えていきたい音楽であることの意識を育てる。 □ 速さ、曲想、伴奏など聞き比べやすいように演奏に工夫する ◇ 関心を持って聞くことができる ・ リズムを感じ取らせる ◇ 3つの音楽の特徴を感じ取る ・ リズムや速さなどの特徴に気づかせる
○ 全員で「こきりこ節」を演奏する	・ リズムに乗ってうたったり、こきりこを演奏したりできるようにする □ 郷土の音楽（民謡）に親しむよう話をする

6 活用効果と課題

- 講師の演奏を鑑賞することで、声の出し方や使われる楽器などに直に触れることができ、郷土の音楽のよさを味わうことができた。また、日本各地に郷土の音楽が存在しており、それぞれ特徴が違うことから伝統的な音楽であることに気づき、郷土の音楽を大切にしていこうという意欲も高まった。
- 地域で邦楽指導に当たられている方から直接指導いただくことで、普段、聴くことができない演奏にも触れることができ、児童に与える教育効果は大きい。
- 今回は、学校支援嘱託員に依頼して実現できたが、外部講師の確保の問題や講師のスケジュール合わせや打ち合わせ等での時間的な面での課題もある。

単元名 「さつまいもをそだてよう」

1 ボランティアの活用目的

児童にサツマイモの栽培を経験させるにあたり、児童も教員も十分な知識と経験がなく、前年は収穫がほとんど得られなかった。そこで専門の農家から栽培の方法や注意事項を教えていただきたいと考えた。

2 ボランティアの方の立場と人数

サツマイモ農家 1名
農協職員 2名

3 ボランティアの方が決まるまでの経緯

- (1) 当該学年の担当から、連携推進担当者にサツマイモ農家に依頼できないか相談
- (2) 連携推進担当者から農協とサツマイモ農家に相談連絡
- (3) 以後は当該学年の担当から直接連絡

4 事前打ち合わせの時間と内容

6月19日 サツマイモ農家を訪れ、授業展開を示し、具体的にお話していただきたい内容と時間について相談した。

5 本時の学習

ねらい サツマイモの苗の植え方を知り、苗植えを経験するとともに、世話の仕方について注意することを知り、秋まで大切に育てようとする気持ちを持つ。

学 習 活 動	支援及び留意点	
		□ボランティア
1 「サツマイモの先生」からサツマイモの植え方を教えていただき自分で植えてみることを知る。 ・苗は緑で細い棒みたいだな。 ・土の山のとっぺんにさすんだな。	○ 本日の講師はサツマイモ農家の方と農協の方で何年もサツマイモ作りを研究していることを知らせる。	□ サツマイモの苗を見せながら植え方を説明する。
2 クラスの花壇にサツマイモの苗を植える。 ・土を押さえるほうがいいんだな。 ・大きいサツマイモが出来るといいな。	○ 担任が苗を配り、位置を指示する。	□ 各クラスにボランティアが指つき、植え方や土のかけ方などを助言する。
3 世話の仕方について注意することを知り、秋まで大切に育てようとする気持ちを持つ。 ・水をあげすぎるとだめなんだな。 ・草むしりをしよう。 ・大きなお芋が取れたらいいな。	○ 農協からいただいたプリントを配布することを伝える。	□ 世話の仕方について説明する。

6 活用効果と課題

花壇に新しい土を入れたこととトラクターで深い位置まで耕していただいたことにより、今までにないよい畑ができた。高く盛られた畝に慎重に苗をさして優しく土をたたく児童の姿に、収穫を楽しみにしている様子が強く感じられた。今まで水をやるのが大切だと思っていた児童や教師にとって、サツマイモはほとんど水をやらなくてよいということは驚きだった。専門家の素晴らしさを実感することができた。もっと来ていただく回数を増やせればよいが、天候にも左右されやすく日程調整が難しい。

伊勢崎市立境小学校の事例

- 1 活動名 「先輩にインタビュー」(キャリア教育)
- 2 実施時期 10月18日(日)9:30~11:40
(今回は、日曜日に実施したため行事扱いだが、授業でも可能)
- 3 対象学年 第6学年 65名
- 4 ボランティアの活用目的
本校では、キャリア教育を計画的に進めており、身近な先輩である高校生や大学生に夢や希望を聞くことは、児童が自分の将来を考える上でとても有意義であると考えた。
- 5 ボランティアの方の立場と人数 高校生6人、短大生2人、専門学校生3人、大学(院)生4人
- 6 ボランティアが決まるまでの経緯
 - ①キャリア教育担当者が、連携推進担当者に相談。
 - ②連携推進担当者が児童の兄弟関係等に連絡。一方で、読み聞かせ等のリーダーに相談。
 - ③連携推進担当者がPTA役員に相談。
 - ④以後、口コミでボランティアが集まり、連携推進担当者から直接連絡。
- 7 事前打ち合わせの時間と内容

10月上旬	連携担当者がボランティアの方々に、活動のねらいや当日の流れ、質問内容の書いてあるプリントを配布する。電話でも連絡する。
活動当日	30分前に来校していただき、当日の流れなどを支援センターで打ち合わせる。

- 8 活動の実際 *2校時は6-1、3校時は6-2とクラス毎に行いました。

学習活動	支援及び留意点	□ボランティア
1 ボランティアの方々の自己紹介をクラスで聞く。		□名前、学校名、一言を子どもたちの前で言ってもらう。
2 グループ毎に各クラスに分かれ、インタビューを行う。 ①6年算数教室 高校生A ②図工室 高校生B ③英会話室 短大・専門学校生 ④5年算数教室 大学(院)生 ・質問の答えをワークシートにまとめる。	[事前準備] ○司会者を決めておき、インタビューの進め方を指導しておく。 ○児童から出た質問内容をまとめておく。(質問内容をチェックしておく) ○部屋の机やいすをインタビューがしやすいように円形に並べておく。 ○質問の答えは、簡潔に記入させる。	□インタビューには、なるべく短く答えていただく。
3 ワークシートに感想を書く。	○心に残ったインタビューの内容を入れさせ、聞けなかった児童に広げる。	
4 クラスに戻り、感想を発表する。	○各班、1~2名の児童に発表してもらう。	

- 9 活用効果と課題

○授業後、子どもたちから「高校に行ったらもっと大変だ。今のうちに勉強をしておいた方がいいと思った。」「大学では、自分で授業を選んで、時間表を作ることが初めて分かった。」「みんな、将来のことをすごく考えていて驚いた。」等の感想が出されました。

○ボランティアの方々からは、「熱心に質問してもらい楽しかった」「自分のためにもなった。」等の感想が聞かれました。

○本校のキャリア教育は、「先人に学ぶ」「将来を描く」「先輩に学ぶ」の三つのテーマのもとに計画的に進められており、インタビューは、中学生から社会人まで行われている。ボランティアの方々にその全体像やねらい、本活動の占める位置をどこでどのように理解していただくかが課題である。合わせて、活動内容をどこまでボランティアの方々に任せるのか明らかにしておく必要がある。

富士見村立白川小学校の事例

- 1 活動名 「お話の森」 朝行事の時間に読み聞かせ活動
- 2 実施期間 平成19年4月～平成19年12月 毎月第3金曜日と水曜日の朝行事(不定期)
- 3 対象学年・人数 1～6年生(6クラス) 193人
- 4 ボランティアの活用目的 児童に良書の読み聞かせをすることにより、読書の楽しさや面白さ
を感じさせ、豊かな人間性を培う。
- 5 ボランティアの方の立場と人数
地域の方 4名 保護者 4名
- 6 ボランティアの方が決まるまでの経緯
以前より活動していた読み聞かせ「お話の森」に、学校支援センターがチラシを地域・保護者に
配布し、読み聞かせボランティアを募集する。それによって「お話の森」に地域の方が2名参加。
- 7 事前打ち合わせの時間と内容
毎月第3金曜日の朝行事は学校の年間計画に組み込まれている。水曜日に関してはボランティア
の方の都合に合わせて、実施日をその都度決めている。読み聞かせ実施後に次回の担当学年を決め
ている。
- 8 活動の実際
 - ・ 8時20分までに図書室に集合し、8時25分から8時40分まで、各学年の教室で読み聞かせ
を行っている。
 - ・ 毎月第三金曜日の朝行事は、1～6学年すべてに読み聞かせを実施。
 - ・ 水曜日は1,2年生を対象に、月に2回程度ボランティアの都合で読み聞かせの活動をしている。
 - ・ 読み聞かせ実施後に次回の打ち合わせをして、本の紹介・感想等を書いてもらっている。内容は
「お話の森通信」や「支援センターだより」を通して保護者・地域に情報発信している。
 - ・ 本の選定はボランティアに一任している。
- 9 活用効果と課題

活用効果

- ・ 季節や行事に合ったテーマをボランティアの方が決めて、学年に見合った本の選定をして読み聞
かせをしくれるので、子供達もとても楽しみにしている。
- ・ ボランティアの方達も子供と直にふれあえるので、やりがいを感じている。

課題

- ・ クラス数と読み聞かせ活動をしてくださる方の人数のバランスと、活動回数の調整。
- ・ 支援センター全体に関わることとしては、ボランティアの方々の専用部屋がないこと。



〈1年生での読み聞かせ〉



〈2年生での読み聞かせ〉

水曜版読み聞かせ
です。とても器用な
紙芝居舞台を手作り
して、子ども達に紙
芝居を読んでもら
しました。

こんな本を読みました
しんせつな友だち
まえがみたろう
さむがりやのねこ
三ねんねたろう 他

高崎市立矢中中学校の事例

- 1 活動名 美術部壁画制作体験 ―夏季休暇中の部活動支援―
- 2 実施時期 平成19年7月～平成19年8月 (夏季休暇中、月～金曜日午前中)
- 3 対象学年 美術部1～3年生 のべ22人
- 4 ボランティアの活用目的
夏期休暇中の午前中を利用し、美術部生徒に壁画を制作体験させる活動において、壁面を提供して下さる施設との事前折衝や(壁面選定、制作時期、図の調整、用具の手配)制作方法の指導に活用を図った。
- 5 ボランティアの方の立場と人数
地域の方2名、提供施設の方4名、合計6名
- 6 ボランティアの方が決まるまでの経緯
支援センターによる連絡で地域の方に依頼した。
- 7 事前打ち合わせの時間と内容
7月初旬から交渉を始め、2回美術部顧問との打ち合わせを行うとともに、4回施設担当者との事前打ち合わせを行って制作に入った。
制作期間は2週間だったが、その間に3度ほど30分程度の打ち合わせを行った。
- 8 活動の実際
病院の外壁面に美術部の活動として壁画を制作した。(4m50cm×2m10cm)
支援ボランティアが病院関係者と打ち合わせし、絵の内容や日程、段取り等の打ち合わせを行うとともに、併せて制作の指導も行った。生徒ではできない部分もあったため、道具等の準備運搬は病院等の方がボランティアとして手伝ってくれた。
およそ、10日間で素晴らしい作品を仕上げる事ができた。また、周辺の環境美化や除草作業も行う事ができた。
- 9 活用効果と課題
壁画制作をしたいという生徒たちの意欲から活動がはじまったが、場所の選定や細かい打ち合わせ等は学校関係者だけでは難しいものがある。そこで今回、そうした施設との打ち合わせや制作の段取りづくりにおいて、経験や地域とのつながりの強い人にボランティアを依頼した。その結果、スムーズに生徒の活動が進み、地域でも評判となるような素晴らしい作品を仕上げる事ができた。
生徒もその出来栄えに大変満足し、以後のさまざまな活動への意欲がさらに高まった。
今後もこの活動を本校美術部の伝統として続けていきたい。



壁画制作に取り組む美術部の生徒

富岡市立高瀬小学校の事例

- 1 活動名 陸上強化練習
- 2 実施時期 平成19年9月4日～10月5日
毎週火・水・金曜日 放課後～17:00
- 3 対象学年・人数 第5・6学年希望者 54名
- 4 ボランティア活用目的
陸上記録会に向けての練習会で、専門性を生かした支援を行うことにより、児童の技能や意欲を高める。
- 5 ボランティアの方の立場と人数
地域の方 4名
- 6 ボランティアの方が決まるまでの経緯
① 学校支援ボランティアに「陸上練習補助」で登録してもらった。
② 体育主任から連携推進担当嘱託員を通し、打ち合わせを含む予定を連絡。
- 7 事前打ち合わせの時間と内容
9月14日 ボランティアセンターに集合してもらい、体育主任と打ち合わせた。
内容・・・マニュアル配布・説明・役割の確認・体育主任からのお願い
- 8 活動の実際
専門的な知識を生かし、幅跳び・長距離走・ハードル走・ソフトボール投げの指導支援。
長距離走では一緒に走ってペースを作ること、ハードル走や幅跳びでは具体的な練習などの実技指導。
- 9 活用効果と課題
 - ・高い専門性を持ったボランティアの協力で、効果的な指導ができ、児童一人一人が記録を伸ばすことができた。
 - ・専門的な指導方法を教師も知ることができ、その後の体育の指導に生かすことができた。
 - ・ボランティアの励ましの言葉が、児童の生き生きとした活動を引き出した。
 - ・課題としては、「継続的な指導」ということが挙げられる。本校では学校への支援を「できるときに」という形をお願いしているので、ボランティアの都合もあり、必ず毎回支援してもらえとは限らない。そのため、アドバイスに差異が生じる場面も見られた。そこで、練習に参加している教員とボランティアとの間で共通理解を図るために、打ち合わせをもっと密に行う必要がある。



陸上強化練習の指導の様子



具体的な実技指導（ハードル走）

東吾妻町立東小学校の事例

1 活動名 読み聞かせ活動

2 実施時期 年間を通して毎月第4月曜日 8:15～8:25

3 対象学年・人数 全学年・115名

4 ボランティアの活用目的

授業前の朝の時間を利用して「読み聞かせ」をする事により、児童の気持ちを落ち着かせるとともに本に興味・関心を持たせ、心豊かな子どもを育てる。

5 ボランティアの方の立場と人数

地域の「読み聞かせ」ボランティア団体（ポプラの会） 9名

6 ボランティアの方が決まるまでの経緯

最初のきっかけは、本校が「親子 20 分間読書」の指定を受けた時に始まる。その時のPTA役員さんから地域に「ポプラの会」があることを教えてもらう。PTA役員さんから「ポプラの会」をお願いしていただき「読み聞かせ」が始まる。現在では、「ポプラの会」のリーダーに実質的な運営をお任せしている。

7 事前打ち合わせの時間と内容

年度初めに学校支援センターにおいて「ポプラの会」のリーダーと話し合いを持ち、実施曜日や時間、人数等の確認を行った。定期的に「読み聞かせ」をしていただけるということなので、本校の年間行事計画に組み入れた。活動内容は、毎月2回打ち合わせ会議を持ち、担当者や読む本の決定、準備等を行っている。

8 活動の実際

「ポプラの会」の方々には、朝の時間の「読み聞かせ」活動を中心にしてもらっているが、その他にも「お楽しみ会」や「図書整理」などもしていただいている。

○朝の「読み聞かせ」活動

毎月第4月曜日に活動している。朝8時頃にボランティアの方々（6、7名）が学校に集合する。その後、各教室に分かれて8時15分から10分間読み聞かせをしている。学年の担当は、順番で交代している。本の種類も1度読んだものは読まないように記録している。「読み聞かせ」の時間が終わると打ち合わせをし、今回の反省と今後の準備を行っている。

○お楽しみ会

朝の活動とは別に、全校児童が一斉に同じ本を共有し、楽しみ、感動を味わえるような機会を設けている。今年度は7月に行った。内容は、大型紙芝居「なぞなぞライオン」や大型絵本「タンクンのふしぎなぼうし」を全校児童の前で行った。絵本の合間に「色のトリックゲーム」などで児童の興味を引き付けていた。

○図書整理

夏休みに図書室の本の整理や背表紙の修理、分類別のシール貼りをしていただいた。

9 活用効果と課題

児童は「読み聞かせ」を楽しみにしており、この活動により本への興味・関心は高まっている。また、授業前の活動により、落ち着いた気持ちで1時間目の授業に取り組んでいる。ボランティアの方々の努力により内容も工夫され、「読み聞かせ」活動の中に英語の学習場面を取り入れるなど、とても興味深い内容である。

本校にとっては続けてもらいたい活動であるが、ボランティアの方々にとっては会員数の増減や活動に必要な予算の確保など、今後進めていく上での課題もみえてきている。本校とボランティア団体との連携をスムーズにし、お互いの問題点を理解し合う姿勢が必要であると考える。

昭和東小学校の事例

- 1 **活動名** パンジー苗の植え替え 学校内の植木の剪定作業
- 2 **実施時期** 平成19年11月1日(木) 13:45～15:30
- 3 **対象学年** 1年23名 5・6年の環境委員6名 園芸委員6名 計35名
- 4 **ボランティアの活用目的**
 - ・児童が地域の方々と共に、花苗の植え替え作業をすることを通して、地域の方々から学んだり交流を深めたりするために、ボランティアを活用する。
 - ・庭木の剪定作業を通して、よりよい教育環境をつくるために、ボランティアを活用する。
- 5 **ボランティアの方の立場と人数**
地域の方 7名 保護者 9名
- 6 **ボランティアの方が決まるまでの経緯**

学校支援センターから保護者と地域宛にボランティアを募集し、3名の応募があった。人数が少なかったため、ボランティアの活動内容をより詳細にして再度募集したところ、8名の応募があった。さらに、嘱託員が地域の団体にボランティア募集の話をしたところ、協力の申し出があり、計16名のボランティアが決まった。
- 7 **事前打ち合わせの時間と内容**

活動開始前に打ち合わせ時間を取り、作業内容の確認、作業手順、注意点の説明等を行う。
- 8 **活動の実際**

保護者には児童と一緒に花苗をプランターに植え替える作業をしてもらい、地域団体の男性の方には植木の剪定作業をしていただいた。活動後、会議室で懇談し、アンケートに記入していただいたり、意見を聞いたりした。
- 9 **活用効果と課題**

<活用効果>

 - ・地域団体の方に、草刈り機やチェーンソー、剪定ばさみを持ってきていただき効率よく作業ができた。
 - ・今回の活動だけでなく、今後ボランティアを募集したり、地域と連携した教育活動をしたりするうえで役立つ意見を聞くことができた。

<課題>

 - ・今後も続けたい活動なので、どのように募集して、継続していくかが課題である。



《資料写真》 11月の花苗植え

桐生市立南小学校の事例

1 活動名 放課後学習教室『ひまわり』

2 実施時期 平成19年5月～平成20年3月 毎週第2、3、4週金曜日放課後

3 対象学年・人数 低、中、高学年 のべ30人

4 ボランティアの活用目的

放課後の時間を利用して、授業でわからなかったことを勉強したり、宿題や補助プリントなどで学習することによって、児童の基礎的・基本的事項の定着や自主的学習の習慣化を図る。また、異学年の児童と一緒に学習することによって、異学年交流を図る。

5 ボランティアの方の立場と人数：地域の方・保護者 4名

6 ボランティアの方が決まるまでの経緯

「学校支援センターだより」で指導者を募集したり、PTA本部役員に募集について依頼し、その結果、4人のボランティアの方が参加してくれた。現在、その内の昨年度PTA副会長さんがリーダーになって、学校支援嘱託員と協力して運営している。

7 事前打ち合わせの時間と内容

学校支援嘱託員が中心になって、教務主任、教頭とともに先ず今年度の開催予定日について計画した。また、連携推進担当とボランティアリーダーとで各学年のプリント学習について準備した。活動開始前には、参加児童用の「活動記録簿」、「ボランティア活動記録簿」の準備、学習を進める上での約束事の共通理解を図る等の打ち合わせをした。

8 活動の実際

□ 教室環境づくり

- ・ 問題作成ソフトを活用するために、パソコン及びプリンターを設置した。
- ・ ボランティアさんがお茶を飲めるように電気ポット、湯茶用戸棚を設置した。
- ・ 二人が対面して学ぶ机12個、6人が車座に座れるテーブル2個、6人が向かい合わせに座れる長机と椅子をそれぞれに用意した。
- ・ 休憩用にソファとテーブルを用意した。
- ・ 放課後学習教室の愛称を募集し、応募の中から『ひまわり』に決定した。
- ・ 棚に各学年に応じたプリント（算数、国語）を区分けして用意した。
- ・ 児童個人の活動記録簿「出席カード」を用意し、終了後、ボランティアさんの私印を押印。
- ・ 学習上のきまりごとを掲示した。

□ 活動の様子

- ・ 参加者は低学年が多いが、学習意欲のある子、宿題を持ち込む子、授業での疑問を持ち込む子など、いろいろである。中には、兄弟で参加する子や、その日は家庭が留守だから参加する子などもいる。
- ・ 開催日には、これまで平均約20～30人の子どもたちが毎回参加している。
- ・ ボランティアの方々には30分前には来て、掃除をしたり、出席カードを出したり準備をしてくれている。学習中は採点や質問に答えたり、注意したりと大変忙しい。
- ・ 児童は、思い思いの机に座って、時にはにぎやかになるが、楽しそうに学習している。

9 活用効果と課題

- 宿題を済ませたい子や学習意欲を満たしたい子にとっては、大変良い学習の場や機会の提供になっている。また、留守にした家庭の受け皿にもなっている場合もある。
- 児童は楽しそうに学び、ボランティアの方々も張り合いを持って楽しく活動をして頂いている。
- 担任の児童への投げかけ方や学校行事の日程等で、参加人数に影響を及ぼすことがある。

太田市立藪塚本町南小学校の事例

- 1 活動名 「花と緑と環境と」
- 2 実施期間 平成19年5月～平成19年1月
- 3 対象 藪塚本町南小学校 中庭
- 4 ボランティアの活用目的
南北の校舎にはさまれ雑草が生い茂るなど、防犯上も課題となっている中庭を整備（美）し、児童が安全に活動でき、地域の方にも親しまれる場所に作り替える。
- 5 ボランティアの方の立場と人数
緑化団体・地域の方々、約20名
- 6 ボランティアの方が決まるまでの経緯
学校支援センターより、地域の教育力有効活用推進嘱託員さんを通じて、地域の方やボランティア団体・農協等にはたらきかけてもらい、様々な立場の方が数多く協力してくださった。
- 7 事前打ち合わせの時間と内容
活動開始前には、学校支援センターにおいて学校側とボランティア団体代表との会議を開催し、休日を利用して団員さんを含め下見を重ねるなど、じっくり計画を練った。
また、地域の方や他の団体には、嘱託員さんが個別に連絡を入れてくださり、その都度、計画・準備・活動内容を話し合っている。
- 8 活動の実際
本校の中庭は夏季を中心に雑草が生い茂り、児童・教職員・PTAが除草作業を行っても容易に整備されない状況が続いていた。また、その中にウサギ小屋が存在し、背丈まで雑草が伸びてしまうような状態なので飼育委員の児童がウサギの面倒を見るのにも防犯上問題となっていた。
そこで、全国都市緑化ぐんまフェアに参加する地域の緑化ボランティア団体と相談し、本校中庭も含め周辺を共同で整備（美）することとなった。花と緑の関係は、団体が9月に植栽設計図と活動計画を立ててくださり、11月にポピーの種まきとプランターづくりを行った。以後、日曜日にはプランターへの水まきも行ってくれている。
同時に、嘱託員さんが市のリサイクル推進課に連絡を取り、ウッドチップを夏から初冬にかけて2トン車8台分届けてもらい、団体やPTA、児童・教職員で雑草が生えやすい所にまいた。
また、ウサギ小屋を児童が集う楽しい場にするため、かなり大きい運動場の新設を計画した。業者に依頼すると大変高額になってしまうため、学校支援センターで作ることになった。10月から設計や材料の調達が始まり、嘱託員さんを中心に地域の方の協力を得て1月に完成した。子どもたちは大喜びである。
コスモスやトウモロコシが雑草に負けて全滅するなど苦労もあったが、中庭全体が見違えるようにきれいになり、学校全体が明るくなったような感がある。
- 9 活用効果と課題
弱点だった中庭を、学校の特色づくりの可能性まで感じさせるものに発展してくれた本事例はまさに学校支援センターのはたらきであり、地域の底力を示すものである。この成果を維持・発展させるために学校・PTAと地域が一体となって一層盛り上げていくことこそ課題と考える。

